

■学校経営のポイント

教員の資質向上策の見直し

小島 宏

中教審が8月28日に、教員の資質向上について答申した。学校運営や教育活動の鍵を握っているのは教員である。そこで、教員の資質向上策を見直してみたい。

公的機関による研修の共有化

教育委員会等の主催による指定研修や希望参加研修、研究員制度など多種多彩な研修が実施されている。参加者の向上はもちろんのこと、それを全教員に共有化する仕掛けが必要である。そこで、参加者に研修結果の報告をさせるだけでなく、内容を要約したA4一枚程度の簡単なレポートを作成させ、適当な機会に全教員に報告させることである。

校内研修の充実

校内における研究、研修を、児童生徒の実態に基づく課題や教員の必要に応じた実質的なものにして、教員の資質向上を組織的に進めるようにする。

○学年会・教科等部会での日常的な研修

学年会等を単なる打ち合わせ会にせず、短時間でもその時々の問題点の解決や、学級経営や教科指導の準備や工夫改善にも取り組ませるようにする。後輩が先輩に質問したり、先輩が後輩に指導したりする学校文化を奨励し、復活させたい。

○課題研修の実施

学習規律の確立、基本的な生活習慣の徹底、ICTの基本技能の習得など、学校として当面する課題について研修する。多忙な中での研修であるから校内のベテラン教員や専門家を講師として、具体的に、短時間で集中的に進める必要がある。

○児童生徒の実態に応じた校内研究の実施

校内研究は、児童生徒の実態を改善することに的を絞って進めるようにする。高邁なテーマを形式的に追究することより、児童生徒の学習や生活上の課題を改善するために焦点化し、研究主任を中心に組

織的に、具体的に進めるように指導・助言していくことが大切である。校長の校内研究に対する高い関心と適時適切な指導がポイントである。

校長と教員の1対1研修

校長（副校長・教頭）が個々の教員と1対1で進める資質向上の営みも大きな効果をもたらす。

○授業観察に基づく指導・助言

人事考課に伴って授業を観察し、その事実即して教員に指導・助言する。教員評価の前に、良い点を認めほめ、問題点の発見と改善への指導、更なる向上への示唆が重要かつ効果的である。

○週案を通しての指導・助言

週案を今週の振り返りと次週の計画に形骸化してはならない。記述の中のきらりと光ることや工夫などを見つけてほめ、さらに良くなるように注文をつけ、必要な情報やヒントを与える。特別な課題があれば別途丁寧に助言する（私事で恐縮だが、ある教員から「この週案は私の宝物です」と言われジーンと来たことを昨日のこのように思い出した）。

○特別課題を通しての指導・助言

学級経営や授業展開に課題がある。保護者との関係がうまくいっていない。このような教員がいる場合は、叱咤激励ではなく具体的な課題を与え、共に考え、実行し、効果を肯定的に評価し、自信を回復させ、一つずつ改善させることがポイントである。

個人研修の奨励

個々の教員に、教員としての職責の自覚と資質向上への意欲を持たせることも重要である。機会をとらえて、個人研究、私人的研究会への参加、研究団体の一員となって自発的、主体的に研究すること、書籍を読んで研修するなどを奨励する。校長自らの後ろ姿で範を示したいものである。

（こじま・ひろし＝（財）教育調査研究所研究部長）

●災害危機下のリーダーシップと今後の学校防災の具体像に迫る！

『学校防災 最前線』

【編】阪根健二（鳴門教育大学大学院教授） A5判・160頁／定価 1995円